



くにちゃんブログ (ジャンル：ビヨンド・ザ・フェンス) 時系列

2006年10月01日から2010年08月30日まで(逆順)

橋本さんのお考えが書かれているものを抜き出しました。

(橋本さんのお考えのかかれていない案内は案内自体省いています。)

重複している文章(「このパフォーマンスは…」から始まる文章など)は、古いほうを残しています。

2011年1月 吉橋 編

A.Platform 小さな勉強会@CAVEのご案内 2010/08/03 01:57	3
第56回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内とご挨拶 2010/07/31 23:54.....	3
第55回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2010/07/12 21:38	5
第53回ビヨンド・ザ・フェンスのお知らせ 2010/05/07 11:06	6
第50回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2010/02/05 13:17.....	7
第49回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2010/01/08 00:03	7
第48回ビヨンド・ザ・フェンス with チェロ、クリスマス公演のお知らせ 2009/12/18 13:11.....	8
第47回ビヨンド・ザ・フェンス (小さな公演)のお知らせ 2009/11/30 16:04.....	9
第47回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2009/11/03 11:56.....	9
第46回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2009/11/01 17:06	10
第44回ビヨンド・ザ・フェンスご案内 2009/08/24 22:59.....	11
第41回ビヨンド・ザ・フェンス with 岡山睦美」ご案内 2009/05/16 00:59	12
4/23 : 第40回ビヨンド・ザ・フェンス with 岡山睦美 2009/04/18 17:33	12
11/28 : 第35回ビヨンド・ザ・フェンス 2008/11/15 14:47	13
10/30 : 第34回ビヨンド・ザ・フェンス 2008/10/29 00:36	13
2/16 : ビヨンド・ザ・フェンス 2008/02/03 00:40	14
7/27 : ビヨンド・ザ・フェンス 2007/07/17 14:30	15
2/1 : ビヨンド・ザ・フェンス 2007/01/23 17:06	15
12/21 : ビヨンド・ザ・フェンス 2006/11/14 14:51	16
10/12 : ビヨンド・ザ・フェンス 2006/10/01 12:56 :	16

第 57 回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2010/08/30 22:26

皆様へ。

夕べはお月様が明るくてきれいでした。

なんだか秋の気配も漂いますね。

昨日は滋賀県の南草津でプレイバックとコンタクトをしてきました。

今まであまり知らなかった滋賀県の人々とたくさん会いました。

特にジュリアとのコンタクトは気持ちよかったなー^^

本当にこの人生で楽しく懐かしいのは、人々との邂逅ですね。

A.Platform 小さな勉強会@CAVEのご案内 2010/08/03 01:57

皆様へ。

7日土曜日 10時から13時までスタジオ CAVEにて
舞台芸術評論家亀田敬子氏をナビゲーターにお迎えし、
「小さな勉強会」を開催します。

いよいよ最終回です！お見逃しなく。

僕も参加します。

実はとても身近なゲイジュツと呼ばれているフィールドへの
視界を一緒に広げてみましょう。

終了後、15時からは徒歩3分のところにあるフェンススタジオで
ビヨンド・ザ・フェンス「小さな公演」が始まります。

「小さな」二つの舞台上演される、中身の濃いゲイジュツの一日を
どうぞお楽しみくださいませ。

第 56 回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内とご挨拶 2010/07/31 23:54

皆様。

僕はこの7月中は延べ13日間プレイバックシアターをしていました。

僕の現在の観点では、プレイバックシアターは、非常に効果的な舞台（結界）芸術であり、舞台の構造そのものの持つ実存的・多層的な意味に接近できる興味の尽きないツールです。

ファミリーコンステレーション（グループで行う家族療法）やサイコドラマ（演技を用いたグループ心理療法）やエンカウンターグループ（人間のつながりと変容のためのグループアプローチ）などの20世紀に誕生した効果的なグループメソッドも同じく舞台（結界）構造を用いています。

舞台構造（リチュアル）が一度セットされれば、その「舞台」の上には非日常的なエネルギーフィールドが自動的に現れます。

その上で、舞踏の作品なり、自分の人生の問題なりを、アクター、ダンサーあるいはただ単に舞台上に上ることに同意して下さった観客（参加者）の身体を用いて配置もしくは造形します。

すると舞台上（結界内）にプールされたフィールドエネルギーが作品やアクターのカラダに作用します。

準備され振付けられた作品は、舞台上では生き生きとした命をもって輝きます。

自分自身の問題点や人生上の問い、人間関係の悩みなどを舞台上に置いてみるとそれはネガティブな悩みの形のままにはとどまらずに、問題の解決や思いがけない気づきや知恵を暗示する新たな造形へと変容していきます。

僕の見解では、この治癒的なエネルギーは、舞台作品に芸術的な命を与えるエネルギーと同じものです。

舞台上で観察されるこのような作品の意味の変容は、再び僕の観察によればアクターやダンサーの意思、あるいは振付家の演出によるものではなく、舞台のフィールドの中から伝達されてくる情報です。

（→形態形成場）

僕がグループ・セラピストとして働くときには、この情報を使って治療（解決）場面まで造形を導きます。

観客のエネルギーとつながって上演される即興の舞踏作品も、このフィールドから上がってくる情報（プレイバックのアクターがよく使う言葉は「降りてくる」）を表現する媒体となることがあり、その場合は見ている者の個人的な内面生活に対して治療的・生産的な影響を与えます。

人の精神的な変容や癒しは、セラピストや舞踏家や教師や宗教家が行うのではなく、任意に設定された特定の場所・位置・空間・時間に現れる、目に見えない「情報」（エネルギー）が行っているということ。

僕にとって、これはとても楽しい観察です。

もう、自分の内面の「問題」や「生き方」について、セラピストや教師や宗教家の「知識」に頼る必要は、基本的にはなくなるからです。

自分自身と自分をそこに「置く」舞台（結界）空間があること。

すなわち、私自身の全身心と、その心身に対して密接にコミットした時空間があること。

僕はこのコミットのことを今は、「舞台上でオドルこと」と呼んでみたいです。

シアター・ザ・フェンスのプレイバックは、さらに「オドル」方向に向かっていきます。

そして、テラー（語ってくださるお客様）からいただく言葉・ストーリーによる造形が我々のオドリへの振り付けとなります。

第 55 回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2010/07/12 21:38

皆様へ。

昨日の月曜日の夜は、スタジオ CAVE で毎月 2 回秘密裏に！？
行われている「ストーリーズ」というグループに参加してきました。

プレイバックシアターのストーリーばかりを経験できるのが特徴ですが、

CAVE の奥まった空間で行う舞台は、「都会の片隅で執り行われている秘儀」といった形容にふさわしく、僕は久しぶりにテラーやアクターをさせていただいてとても楽しかったです。

大阪市西区の片隅にある洞窟 CAVE で、ある決まった日にそこへ行けば、いつもプレイバックシアターや舞踏が行われている。

人々にとって、月に何度かフラッとその洞窟に足を運び、時には語り、時にはオドルことで、

深い内面から響いてくる周波数と同調し現実世界で生きている自分の在り方を調整することが日常化した祭儀になっている。

だんだん面白い町になってきました。

第53回ビヨンド・ザ・フェンスのお知らせ 2010/05/07 11:06

皆様へ。

5月8日土曜日は、第53回目のビヨンド・ザ・フェンスです。

今回はゴールデンウィーク最後の土曜日の昼下がり。

ご都合に合わせておいでくださいませ。

ビヨンドに来てくださった方がツイッターに感想を書いてくださいました。重厚な言葉に感じ入りましたのでシェアさせていただきます。

「プレイバックシアターのワークショップに初参加。観客が自分の体験を語り、その場でアクターによってすぐに演じられる即興劇。自己の内面を他者によって「表現」されるという不思議な体験。エンタメ本位になりがちな最近の演劇に、そもそも演劇が持つ潜在力と可能性を突きつける。

私はテラー（語り手）として、数日前の葬儀の体験を語った。自死した息子にまつわる父、妹、僧侶の私の対話。それを数分のドラマに即興で仕立てていくアクターたちの緊張感。台本、演出家なしの一発勝負。極限までセリフは削って、私は身体だけの対話が見たい。ここの役者は鍛えられるだろう。

会場は京セラドーム近くのビルの一室。小さな板張りのスペースに、参加者は7名ほど。都市の片隅で、静かにコミュニティの秘儀を交わすような。昔、アジアの路上で見たコミュニティプレイを思い出した。演劇は儀礼だ。ファシリテーターは橋本久仁彦さん。

プレイバックして何か成長しましたか？と聞いたら、演じていた若い女性が「人の話をよく聴くようになりました」。即興だから一言一句聞き逃さないのだと。すごく共感した。演劇は騒がしい自己主張ではない。自己受容であり、他者理解だ。そこから自分の身体一つを手掛かりに、世界に架橋する営みだ。」

第50回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2010/02/05 13:17

皆様へ。

今週2月5日の金曜日は、とうとう50回目のビヨンド・ザ・フェンスです。

いつも通り、ていねいにプレイバックシアターを行いたいと思います。

第49回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2010/01/08 00:03

皆様へ。

新年明けましておめでとうございます。

決して明るい期待を持てる新年ではないのですが、仲間たちからの挨拶には生き生きとしたエネルギーがあふれています。

今年はひょっとして、皆さんにとってヨミガエリの年なのでしょうか？

皆さんの動向が楽しみです。

皆さんが毎瞬間生きておられる場所・空間は、皆さんお一人お一人の雰囲気満たされていることと思います。皆さんのそばにおられる方々はいつもそれを感じることができるんですね。

僕も皆さんとご一緒させていただいた時には、その雰囲気を感じることができます。

ありがとうございます。

「それぞれの予感」に満ちたこの2010年も、「自分自身という雰囲気」とともに、ていねいに生きていきたいと思えます。

末永くよろしくお願い致します。

第48回ビヨンド・ザ・フェンス with チェロ、クリスマス公演のお知らせ 2009/12/18 13:11

皆様へ。

「第48回ビヨンド・ザ・フェンス」をご案内いたします。

先日の日曜まで徳島県の大神子（おおみこ）で行われたプレイバックシアター研究クラスは「実践！パフォーマンス」と銘打ち、参加者が二つに分かれて作った劇団「大神子ワカメ」と「チームはまぐり」が見事な90分フルパフォーマンスで対抗し、質の高い劇空間を生み出しました。

今回の各チームへの課題は「新しいショートフォーム（5分以内で終わるエネルギー重視のプレイバックの形）を作ること」だったのですが、意欲的な各チームメンバーのコミットのおかげで美しいショートフォームが二つも生まれました。

一つは大神子ワカメが開発した「動くワカメちゃん」、僕が勝手に改名して「ザ・ウィード」と名付けよう

^^

コンタクト・インプロのエネルギーを持った柔軟な動きの妙を見せるショート・フォームです。

もう一つはチームはまぐりの手になる「プライベート・ミュージアム」。

こちらはアクターが距離をとって立ち、空間の美しさを使って見せてきます。

大神子研究クラスではかつて、カンボジアでの体験にインスパイアされたショートフォーム「バイヨン」（カンボジア国民に愛されている遺跡の名前）を生み出しましたが、これで3つの美しいプレイバック・ショートフォームが日本から発信されることになるのは楽しいですね。

僕にとってワクワクするテーマなので、また改めて、プレイバックのショートフォームや、場の情報とそこに存在する

人の感情や感覚に触れるダンス作品作りにフォーカスを当てたクラスを開催してみたいと思っています。

さて、今月25日のビヨンド・ザ・フェンスは

チェロ奏者の甲藤 為元氏とのコラボレーションを試みます。

皆さんにご紹介したかった仲間の一人です。

チェロと先ほどあげたショートフォームとの相性はどんなものになるのでしょうか？

クリスマスにふさわしい取り合わせですね^^
大切な方と一緒にどうぞ。
お待ちしております。

第47回ビヨンド・ザ・フェンス（小さな公演）のお知らせ 2009/11/30 16:04

皆様へ。

「第47回ビヨンド・ザ・フェンス」をご案内いたします。

プレイバックシアターは、「儀式」を本質とした舞台装置です。

儀式とは一般的には「通過儀礼」ですが、プレイバックシアターの舞台装置がそのための扉＝ゲートを準備します。

そしてお客様が、そのゲート＝シアター＝芝居小屋（劇場）に参入し、見つめること＝目撃によって場のエネルギーの一部になると、劇場内の磁場密度においてしか見ることのできない一人ひとりのビジョンを、お客様の責任において見る（レスポンスする）こととなります。

舞台上で演じられる、もしくはアクターによって「生きられる」テラー（お客様の一人）のストーリーは見る者すべてが共有できる人間の人生のエッセンスを含んでいます。

見るものの視力とコミットによって、舞台上という結界の中で繰り広げられるアクティング＝舞踏の世界の中に自分自身に必要な体験・知恵・洞察をいくらかでも望みのままに見ることが可能になります。

すなわちこの意味で、プレイバックシアターにおける「舞台」とは、舞台芸術を許容する全人類がアクセス可能な「アカシックレコード」への扉だと言ってみたいと思います。

一つの町や村に、この意味での一つの劇場＝扉があり、その地に生きる民衆に対して親しく機能していること。

まず自分の住む町で実現していきたいと思います。

第47回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2009/11/03 11:56

皆様。

こんにちは。おもにミュージシャンの橋本仁美です。

突然冬がやってきましたね。

どうぞ暖かくお過ごしください。

第47回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内です。

ビヨンド・ザ・フェンスの舞台にいるとき、
時間がとまり、“今”しかないような感覚に陥ります。

毎月の公演ですが、私にとってはその時間のみが
日常の枠を超えて、別個の空間として起こっているように
感じられます。

そして、各月のビヨンド・ザ・フェンス同士は
ほかの日常経験と別の場所で、連続して記憶されています。

この記憶領域の違いがおもしろいなあと、
最近感じています。

これらの経験の仕方の違いはいったい何なのだろうかと
ますます興味を惹かれています。

また訪れる、定期公演の場を大いに
楽しみたいと思います。

みなさまのご参集をお待ちしております。

シアター・ザ・フェンス 橋本仁美

第46回ビヨンド・ザ・フェンスのご案内 2009/11/01 17:06

皆様へ。

明日30日の金曜日は「第46回ビヨンド・ザ・フェンス（小さな公演）」がありますのでご案内します。

先日の日曜日、「自分流リラックスダンスとプレイバックシアターの基礎」クラスの中から生まれた新生劇団「まざありいふ」<http://pt-motherleaf.jugem.jp/>の旗揚げ公演が高槻市内で行われました。
なんと地元の美容室を借り切ったのユニークな公演です。

広島の「トポフィリア」、高槻の「まざありいふ」と各地で相次ぐパフォーマンスのお知らせを聞くことは、

僕にとって幸せなことです。

12月の5, 6日は鳥取の劇団シアター・ザ・ウェイブ主催のワークショップも待機しています。
徳島の劇団あわ' S プレイバックシアターなど西日本にも魅力的なプレイバックのカンパニーが増えてきました。フフフ^^ / みんなで何をやれるかなあ・・・楽しみです。

来年も新しいユニークな劇団が増えるといいな。(増えると思います^^)

第44回ビヨンド・ザ・フェンスご案内 2009/08/24 22:59

皆様へ。

昨日の CIMJ@びわ湖ホールでの「場所とコンタクト」コンテンポラリーダンス作品ショウイングに、素晴らしいセンスを発揮するダンサー達とともに参加できたのは本当に幸せな体験でした。

それぞれの作品チームの間は、びわ湖ホールの建築構造やびわ湖の景色そのものと対話を重ねて、自分の感覚を全開にし、見る者がはっとするような、あるいはフワッと自由になるような、また思索の深みに誘われるような、日常の感覚世界とは異なるダンス空間を作り出すことができました。

ダンサー自身は異空間にいるため、はっきりとは見えないその効果を、観客席で見てくださった方々が感動や驚きとして伝えてくださるのを聞かせて頂きながら、「ダンサー」はやはり幸せな「民族」だなあと感じました。

一見、意味不明な感じとともに眼前に現れるコンテンポラリーダンスの空間ですが、にもかかわらず、心動かされて涙する観客が居るとき、その涙はとても深いところから湧いてくる情感であるように思います。

僕の観察では、メッセージが言語化されていなくて、「知性化」へ引っ張られる要素が非常に少なく、観客が自由に自分の見方で見ることができること、そして意味づけも任されているような設定の工夫（演出）がなされた舞台空間の中では、パフォーマーの舞踏から生き生きとした生命感をともなった「意識状態」が直接的に観客に手渡されるように思えます。

ダンサーが「作品メッセージ」の表現を意識せず、余計な重さや「汚れ」を持たない分、見ているものの自我構造を透明なまま通過して、今ここに存在する観客という「一人の人」の深みを直接打つことが可能になっているようです。

それゆえ、涙する人も、自分がなぜ泣いているのか簡単には説明できないのです。

それはその人の言語能力が低いからではないと思います。

「それが深いところで動いている」からこそ容易に言葉にならないのではないのでしょうか。

このような、建築物や場所と踊る、という考え方は、自然の中や過疎の村、高齢の方の施設や困窮者のためのシェルターで舞台を作ってきたシアター・ザ・フェンスやオーシャンズの考えと重なります。

僕は、普通にこの世を生きる人間として、日常の些細な場面の中に居ながら、そこに生きている感覚の変容に向き合っただけで自由に旅するようなあり方に関心があります。

自分自身の確かさで、そしてときにおぼろげな感覚を通じて、その瞬間の日常場面にピッタリ重なり、織り込まれている多次元のリアリティの扉を開けていきたい（生きたい）と思います。

そのような「日常の行為」が僕にとってのコンタクト・ダンスであると思います。

第41回ビヨンド・ザ・フェンス with 岡山睦美」ご案内 2009/05/16 00:59

皆様へ。

「第41回ビヨンド・ザ・フェンス with 岡山睦美」をご案内いたします。

シアター・ザ・フェンスでは「ビヨンド・ザ・フェンス」と名づけられた定期パフォーマンスを行っています。

このパフォーマンスは・・・

- ① きっと、毎月行われます。
- ② おおむね、小さなスペースで行われます。
- ③ おそらく、シアター・ザ・フェンス（プレイバックシアターの劇団）のメンバーによるパフォーマンスが行われます。
- ④ 必ず、参加された方の「人生」に対して敬意が払われます。
- ⑤ すべからず、参加された方のどんなお話であっても、アクターは誠意を持って、即興で演じ、お返しいたします。
- ⑥ もとより、このパフォーマンスは存在と我々をひとつに結びつける「物語」の持つ力を信じ、地球上に生きるすべての人々の「語られなかった物語」に捧げられるものです。

(吉橋註：このときから、①②…と番号がつきました)

4/23 : 第40回ビヨンド・ザ・フェンス with 岡山睦美 2009/04/18 17:33

皆様へ。

「第 40 回ビヨンド・ザ・フェンス with 岡山睦美」

をご案内いたします。

とうとう第 40 回を数えることになったシアター・ザ・フェンスのパフォーマンス「ビヨンド・ザ・フェンス」

今回は場踊りの岡山氏に加え、はいね、ともこ、聡、かばまるといったフェンスレギュラー陣がそろい踏みの予定です。

日常とは波長の違う「場」の中で、改めて「日常」を観客として観てみましょう。

日常の境域をいとも簡単に乗り越えていく儀式的営為としてのプレイバックシアターです。

「自分」とご一緒に、お気軽にお立ち寄りくださいませ。

11/28 : 第 35 回ビヨンド・ザ・フェンス 2008/11/15 14:47

皆様へ。

第 35 回ビヨンド・ザ・フェンスの御案内です。

明日から 10 日間、オーシャンズタイランド遠征チームと共にラオス・カンボジアとの国境に近いノングハイ村へ行ってきます。いったい村でどんな体験が待っているのか、そもそも無事に村へたどり着けるのか??

今までの旅と同じくハプニングの連続でしょうが、ダンスやプレイバックシアターで人々の心と触れ合いながらオーシャンズ仲間の絆を深め、しっかりタイの大地を歩いてきたいと思います。

帰国後、28 日金曜日にビヨンド・ザ・フェンスを開催します。

そして、好評の岡山六都美氏によるプレイバック舞踏、今回もお楽しみください。

お気軽に、どうぞそのままのお姿でお立ち寄りくださいませ。

10/30 : 第 34 回ビヨンド・ザ・フェンス 2008/10/29 00:36

皆様へ。

第 34 回ビヨンド・ザ・フェンスの御案内です。

昨日まで徳島大神子海岸で開催されたプレイバックシアター研究クラスでは参加して下さった皆さんとともに、とても興味深いことをいろいろ確認することができました。

プレイバックシアターにおける「ウォームアップ」は心身を通して、存在そのものへ向かう準備であること。

たとえば礼拝の前に、身なり、身体、呼吸、思考を整え、必要なエネルギーを受け取る準備をすることに似ています。

またアクターは、人間関係のもつれを解き、本当の自分自身としてのあり方・生き方を回復させるために、大きな源泉から浸透して来るエネルギーを受信する媒体（代理人）としての働きを持つこと。

そのエネルギーを認識し敬意を払っていない場合、パフォーマンスを「有効に」するための技術は神聖な雰囲気やテラーの語るストーリーの重さ、すなわちテラー自身の存在の重さを損なう方向に働くこと。

プレイバックシアターの儀式的手続きは、これらのエネルギーがいわば「自動的に」、つまりコンダクターやアクターの計らいとは関係なく、シアターの場に訪れるための「器」を整えることだということ。

そしてそのようなエネルギーによって浸透されたプレイバックシアターの「場」においては我々が「失敗」と呼ぶような出来事は起こりえず、すべてが共時的に意味を持つ空間が出現するという。などを参加者全員で目撃することができました。

そのような「場の力」が存在する空間でのプレイバックシアターは、肉体の動きよりもエネルギーのダイレクトな動きがストーリーを表現するようになり、アクティングは能舞台のような雰囲気をかもし出し始めます。

今回もそのような「場」を舞うのにふさわしい舞踏ダンサー、岡山六都美氏をゲストに迎えて、プレイバックシアターがアクセスするエネルギーを踊っていただきます。

どうぞそのままのお姿でお立ち寄りくださいませ。

2/16 : ビヨンド・ザ・フェンス 2008/02/03 00:40

皆様へ。

またまた26回目のビヨンド・ザ・フェンスのご案内です。

なんだか進む回数が早いです。

最近、時間が加速してますね??

今度は土曜日午後の時間帯でダンス表現などのワークショップのあと、フェンスパフォーマンスをお楽しみいただきたいと思います。

体からあふれる「表現」って本人も見つかる方もどうしてこんなにわくわくするんでしょうね。

どなたでもお気軽にお立ち寄りくださいませ。

7/27 : ビヨンド・ザ・フェンス 2007/07/17 14:30

このパフォーマンスは・・・

- ・きっと、毎月行われます。
- ・おおむね、小さなスペースで行われます。
- ・おそらく、シアター・ザ・フェンス（プレイバックシアターの劇団）のメンバーによるパフォーマンスが行われます。
- ・必ず、参加された方の「人生」に対して敬意が払われます。
- ・すべからく、参加された方のどんなお話であっても、アクターは誠意を持って、即興で演じ、お返しいたします。
- ・もとより、このパフォーマンスは存在と我々をひとつに結びつける「物語」の持つ力を信じ、地球上に生きるすべての人々の「語られなかった物語」に捧げられるものです。

吉橋註：説明文に、以下がなくなりました。

- ・たぶん、このパフォーマンスには「自分自身への気づき」や「他者の人生への共感」などが含まれます。
- ・すべからく、いろんな方々にお目にかかれることを楽しみにしておりますが、もし誰もいらっしゃらなくても「パフォーマンス」は行われます。
- ・もとより、このパフォーマンスは「存在」に対して捧げられるものだからです。(2006/10/01)」

代わりに以下が付加されました

- ・すべからく、参加された方のどんなお話であっても、アクターは誠意を持って、即興で演じ、お返しいたします。
- ・もとより、このパフォーマンスは存在と我々をひとつに結びつける「物語」の持つ力を信じ、地球上に生きるすべての人々の「語られなかった物語」に捧げられるものです。

2/1 : ビヨンド・ザ・フェンス 2007/01/23 17:06

第14回ビヨンド・ザ・フェンス（小さな公演）御案内

先日のビヨンド・ザ・フェンスはシアター・ザ・フェンス・アブストラクトチームのパフォーマンスでした。ストーリーは3本いただきました。

1 本目は、他者の評価に一喜一憂する生き方から自分自身を大事にする方向へ気づきを深め、さらにまだ見ぬ未知の自分を解放しようと試みる男性のお話。

2 本目は詩作を愛し、詩とともに生きることを望みながらも、生活との両立や、社会的地位と本当の幸せとの関係を探求する女性のお話。

3 本目は、先の 2 本のお話へのひとつの応答のように現れた幸せな夫婦のストーリーで、キャンプを愛し、自然の中で人々とのつながりを楽しむ生き様がプレイバックされました。

御来場くださった皆様、まことにありがとうございました。

12/21 : ビヨンド・ザ・フェンス 2006/11/14 14:51

シアター・ザ・フェンスは
「第3木曜日～ビヨンド・ザ・フェンス」
と名付けられた定期パフォーマンスをいっています。

10/12 : ビヨンド・ザ・フェンス 2006/10/01 12:56 :

シアター・ザ・フェンスは
「第3木曜日～ビヨンド・ザ・フェンス」と名付けられた
定期パフォーマンスを行っています。

このパフォーマンスは・・・

- ・きつと、毎月「第2」or「第3」の「木曜日」に行われます。
- ・おおむね、小さなスペースで行われます。
- ・おそらく、シアター・ザ・フェンス
(プレイバックシアターの劇団)のメンバーによる
パフォーマンスが行われます。
- ・必ず、参加された方の「人生」に対して敬意が払われます。
- ・たぶん、このパフォーマンスには「自分自身への気づき」や
「他者の人生への共感」などが含まれます。
- ・すべからく、いろんな方々にお目にかかれることを
楽しみにしておりますが、もし誰もいらっしゃらなくても
「パフォーマンス」は行われます。
- ・もとより、このパフォーマンスは
「存在」に対して捧げられるものだからです。

※プレイバックシアターはジョナサン・フォックスによって 1975 年にアメリカで生まれました。楽しいレクリエーションから心理治療、コミュニティ作り、スピリチュアルな自己実現まで幅広い射程を持つ即興心理劇です。現在、アメリカをはじめ、ヨーロッパ、ニュージーランド、オーストラリアなど世界の約 30 の国々に広がっており、日本には 1984 年に入ってきました。教育、精神治療、演劇、社会福祉などの分野で実践され、一般にも気軽に楽しむ人の数が増えています。

以上